慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	日本における大学発ベンチャーの成功のために： ベンチャーアンケート調査とベンチャー支援者インタビューを比較して
Sub Title	
Author	志賀, 卓弥(Shiga, Takuya) 中村, 洋(Nakamura, Hiroshi)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2016
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2016年度経営学 第3163号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002016-3163

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（　　2016　年度）

論文題名

日本における大学発ベンチャーの成功のために

―ベンチャーアンケート調査とベンチャー支援者インタビューを比較して―

主　査	中村　洋
副　査	岡田 正大
副　査	村上 裕太郎
副　査	田中　滋

氏　名	志賀　卓弥

論 文 要 旨

所属ゼミ	中村洋　研究室	氏名	志賀　卓弥

（論文題名）

日本における大学発ベンチャーの成功のために
―ベンチャーアンケート調査とベンチャー支援者インタビューを比較して―

（内容の要旨）

＜背景＞大学の各研究室には優れた技術や人材が集積している．しかし日本において大学シーズを利用した大学発ベンチャー（VB）が非常に少ない．基礎研究やシーズ技術等の優れた技術を用いた製品，サービスを創造しようと VB として起業しようとすると，多くの障壁が存在していた．大学発 VB ビジネスについて，我が国の現状，今後の VB ビジネス見通しについて興味を持った．＜目的＞日本でこれまで行われてきた政策，大学，VC 等による大学発 VB への各種支援が，大学発 VB の成長に与えた影響を分析し，今後，日本における大学発 VB の成長を促す支援の在り方はどうあるべきか，大学発 VB の現在の問題点，その原因，解決策を検討し，日本における大学発 VB の成長のために必要な提言を行う．＜方法＞平成 27 年度産業技術調査事業報告書アンケート結果と現状分析より大学発 VB の現状を把握し，課題を抽出した．大学発 VB 支援者に対し半構造化インタビューを行った．インタビュー結果は修正版グラウンデッド・セオリーアプローチ（M-GTA）により概念化を行った．経済産業省のアンケート結果とインタビュー結果を比較し，有効と思われる施策，新たに必要と思われる視点，仕組みを考察した．＜結果＞M-GTA に従い，概念のカテゴライズを行った．インタビュイーの多くが重要と指摘した項目を重要な項目とした．経済産業省のアンケートで重要な施策の項目とこれらの項目を比較検討した．＜考察＞経済産業省のアンケート結果とインタビューの共通点として，ビジネスモデルが描ける人材がいる，資金調達の出来る人材いる，社会へインパクトのある・差別化された製品・サービスがある，エンジェル・VC を活用した資金調達が出来る，グローバル展開のために外国人等をメンバーへ入れる，が挙がった．これら共通した項目については大学発 VB の成功に重要な項目として確認できた．経済産業省のアンケート結果では上げられていない点で，今回のインタビューで新たに得られた視点は，研究者は経営陣に入るべきではない，研究者のマインドセットとして起業に消極的である，クラスター形成が必要である，公的資金の投下方法の問題，が挙げられた．研究者は，投下資本を研究費と勘違いしている研究者が多く存在し，経営能力の欠如，資金調達能力の欠如，市場戦略の欠如があげられ，マインドセットとして，失敗を周囲が受け入れない，起業したいというモチベーションがない，兼業規定の問題，給与の確保が不安定といった要素による物と考えられた．VB の立ち上がりにはスピードが必要であり，そのやり取り，連絡には近い方が有利である．そのため，クラスターを形成することが多い．公的資金の使用方法の問題は，VC の運用費用としての取り分は，運用資金の数％程度と言われている．VC にとって取り分を増やすためには，手元資金を投資している方が良い．つまり，公設 VC は，手元資金を全額投資していた方が，自身の取り分は増える．そのため，公設 VC が直接投資をすると，VB の企業価値を高く見積もりがちとなり，民業圧迫となる．＜結論＞経済産業省の VB へのアンケート結果と，インタビューの結果から，1.人材，知財，資金調達が重要である．2.資金調達は株式調達が重要である．3.VB はグローバルで戦略を立てることが重要である．4.大学発 VB において，研究者を経営陣に含めるべきではない．5.クラスター形成が必要である．6.公的資金投資は，VC の目利き力に基づき供給する必要がある．7.アントレプレナーシップ教育が必要である．そしてこれらをサステイナブルに行うためには，大学発 VB 創出の大学側支援，国の環境整備，民間投資が循環するエコシステムが必要である．